<table>
<tr><td>種名</td><td>

ミ ド リ ヒ ョ ウ モ ン

Argynnis paphia

</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>タテハチョウ科</td></tr>
<tr><td>形態</td><td>前翅長 31～40mm。もっとも普通に見られる大型ヒョウモン類。後翅裏面の地色が黄緑色。外縁が白色をおび、3本の太い白帯の縦すじをもつ。♂の翅表の地色は橙赤色。前翅の翅脈に沿って4本の発香鱗条（性標）があり、他種の物より太く明瞭。♀は地色が黄色をおび、翅表の黒斑が発達する。さらに前翅端に白斑をもつ。</td></tr>
<tr><td>分布</td><td>北海道、本州、四国、九州。</td></tr>
<tr><td>出現期</td><td>年1回の発生。暖地では5月下旬より羽化、6月頃まで活動する。夏期は山地を除いて姿が見られなくなり、秋に再び現れる。羽化直後に交尾するものと、秋になってから交尾する場合がある。これは他のヒョウモン類も同様。寒冷地、山地では7～8月に見られ、夏期にも活動する。越冬態は卵（卵内初齢幼虫）、または1齢幼虫。</td></tr>
<tr><td>生態</td><td>雑木林の周辺に棲み、渓流沿いにも多い。山頂や開けた草原に飛来する。アザミ類、ノリウツギ、クリ、オカトラノオなどで吸蜜する。地上で吸水することも多い。秋に産卵活動を行い、食草に直接産むことは少なく、近くの樹幹などに1卵ずる産付する。</td></tr>
<tr><td>食樹</td><td>スミレ科のスミレ、タチツボスミレなど。</td></tr>
<tr><td>幼虫
（幼生期）</td><td>体長 45mm。頭部は黒色、胴部は褐色、前胸部に一対の長い突起があり、胴部の突起も他種より細長い。背面には黄色の2本の縦縞がある。</td></tr>
<tr><td>出現時期</td><td>

（月）	ー	ー	ー	ー	5	6	7	8	9	10	ー	ー

</td></tr>
<tr><td>その他</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">参考文献：検索入門　渡辺康之著　チョウ</td></tr>
</table>